

年	児童の実態	授業改善の視点とその方策	2月検証
3	<ul style="list-style-type: none"> 植物や動物に興味をもち意欲的に取り組む。 細かい所まで観察する力が弱く、表現力にも課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 魅力ある内容を学ばせながら興味関心をもたせる。体系的な自然科学を学ぶ素地を養う。 観察時に見るべきポイントを提示することにより、調べる内容を明確にする。 	<ul style="list-style-type: none"> 普段食べている野菜の成長を観察したことで、強い関心をもって学習に取り組むことができた。 一人一人に実験させる場を増やすことを通して、どの子も興味をもって学習することができた。
4	<ul style="list-style-type: none"> どの課題にも意欲的に取り組んでいる。理由も自分なりに考えようとする児童が多い。ただ、実験や観察の方法がまだ十分には定着していない。また、科学的なものの見方、考え方が十分にはできていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 細かな点にまで注目できる観察力を養う。また、実験の目的や方法を十分に理解させ、一定の時間内に作業できる力を身に付けさせていく。 ものごとを関連させていく科学的なものの見方を身に付けさせていく。 友達の意見を聞いたり、分かりやすく根拠を話したりする場を適宜設けていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 観察や実験の際、事前指導を十分に行うことで、目的や方法を理解させ、スムーズに学習させることができた。 既習事項と関連付ける指導を行うことで、根拠をもって予想を立てることができるようになってきた。 友達の意見をしっかりと聞かせることを通して、よく考える態度が身に付いてきた。
5	<ul style="list-style-type: none"> 真剣に話を聞き、実験や観察にも興味をもって取り組むが、既習事項を応用したり、物事を関連付けて考察することが十分にはできていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 重要な概念を確実に理解させ、応用できる力を身に付けさせていく。また、比較実験の方法を定着させていく。 自分の考えをより発展させられるよう、話し合う時間を必要に応じて設けていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 既習事項を反復することを通して、応用力を高めることができた。 話し合う時間を十分に確保することで、自分の考えを確かなものにしたたり、修正したりすることができた。
6	<ul style="list-style-type: none"> 指示したとおりに学習することはできるが、進んで考えたり、より深く調べようとしたりすることが十分にはできていない。 集中力を持続させるのが難しい児童もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題を絞り、実験や観察も最低限に抑え、予想したり理由を考えたりする時間を多く取り入れる。 児童が考えを出し合い、検討する場面を必要に応じて設定する。 必要に応じて、調べ学習を取り入れていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習内容を必須事項に絞って指導することにより、考える時間を十分に確保することができた。 根拠をもった予想を立てたり、表現の仕方を工夫したりすることができるようになってきた。